

クリスマスに考えよう  
「イエスさまってどんな救い主?」\*

鈴木寛 (Hiroshi Suzuki)

31:「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。 32:そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、 33:羊を右に、山羊を左に置く。 34:そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。 35:お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、 36:裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』 37:すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。 38:いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。 39:いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』 40:そこで、王は答える。『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』 新共同訳：マタイによる福音書 25 章 31 節-40 節

## あいさつ

クリスマスおめでとうございます。クリスマスは救い主イエスキリストの誕生をお祝いする日

\*国際基督教大学教会 教会学校 中高生クリスマス, 2014 年 12 月 21 日

ですね。

## 問いをもつこと

救い主ということは、もちろん、救って下さる方という意味ですが「救い」とか「救われる」とはどんなことでしょうか。

イエスさまを救い主と信じる人は救われて永遠の命を与えられ天国に入ることができる

これでよいのでしょうか。聖書に本当にそう書いてあるのでしょうか。「救い」について、わかった気になりますか。

「教会学校に行っているって聞いたけれど、キリスト教で救われるとはどういうことなの?」と、ともだちに聞かれたときに、説明することはできますか?<sup>1</sup> 実は、私も、高校生のころから教会に毎週通うようになったのですが、友人から質問されて困った経験があります。

天国って? 永遠の命って? 信じるって? どういうことでしょうか。

理解したことに基づいて行動することを願う<sup>2</sup>。完璧にはできないかも知れないけれど、そうしたいなと願って生きる、そのためには、それはどういうことなのだろうという「問い」を持つことがたいせつだと思います。

## 質問歓迎

今日も、聖書の箇所を読んで、みなさんに質問を出していただいて、一緒に考えたいのですが、

<sup>1</sup> ペテロ 3:15 心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。

<sup>2</sup> マタイ 7:24-27 そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。..., ヨハネ 8:31, ヨハネ 13:34, 35.

すると、2・3時間はかかってしまうでしょう。そのようには、できませんが、今日の聖書の箇所から「イエス様は、どんな救い主か」という問いについて少しだけ一緒に考えてみたいと思います。

まず、イエス様は、質問 OK の救い主です。今日の聖書は、24章のはじめの弟子達の質問<sup>3</sup>にイエス様が答えている箇所です。そして、今日の箇所の中でも、登場人物が質問をし、それに答えています<sup>4</sup>。

イエス様は「質問なんかしてはいけません。ただ、信じなさい。」という救い主ではありません。弟子たちや、いろいろな人の自由な質問に答えながら説明するのが、イエス様の基本的な姿勢です。

ただ、ひとつ注意しておかなければいけないのは、イエス様は説明して下さいますが、わたしたちが、それで、全部わかるわけではありません。神様のこと、神の国のことは、人間のことばでは完全には、語れないのです。そして、希望は、まだ見ていないことを期待することから<sup>5</sup>、すべてを理解したうえで、神様に信頼したり、希望を持つのではありません。

## 聖書箇所概要

聖書の箇所を見ていきましょう。

34:そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。35:お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、36:裸のときに着せ、病気のと看に見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』

この王は33節には「人の子」とありますが、それは、イエス様のことです。ここでは、あなたたちは、わたし（イエス様）の国と一緒に住むこ

<sup>3</sup>マタイ 24:3 イエスがオリブ山で座っておられると、弟子たちがやって来て、ひそかに言った。「おっしゃってください。そのことはいつ起こるのですか。また、あなたが来られて世の終わるときには、どんな徴があるのですか。」

<sup>4</sup>マタイ 25:37-39

<sup>5</sup>ローマ 8:24、ヘブル 11:1

とができるよ。それはなぜかというと、わたし（イエス様が）「飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のと看に見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。」と言っています。イエス様が、苦しんでいたときに、必要なものを与えてくれた。助けてくれた。見捨てないで、一緒にいてくれた。たいせつにしてくれた。と言っています。

37:すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。38:いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。39:いつ、病気をなざったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』<sup>6</sup>

ここは、そんなことはしていないと言うより、「イエス様に対してそんなことはしていませんよ。」と言っているようです。

40:そこで、王は答える。『はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

「はつきり言っておく」と言う箇所は、新約聖書が書かれた原語のギリシャ語では、アーメン・レゴ・ヒューミン、いいですか、みなさんに、たいせつな、真実（本当のこと）を伝えますよ、というイエス様が特別にたいせつな事を伝えるときに、使われる言い方です。

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にした」のは「わたしに（イエス様）した」こととまったく同じだよ。とっています。

「イエス様の国」というのは「イエス様の願いがそのまま行われるところ」といういみですが、それは、他の言い方をすると「イエス様と

<sup>6</sup>37: そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。38: いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。39: また、いつあなたが病気をし、獄にいらるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

喜びをともにする世界」とも言い換えられると思います。

どうやったら、イエス様と喜びをともにすることができるの？ という問いに、

イエス様の兄弟（神様の子である、つまりわたしたちの兄弟）これらの最も小さい者が、「飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、36:裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた」ことによって。と答えているのです。

希望が無く、絶望しているような時に、一緒にいてくれるひとと出会ったひとは、希望を与えられたでしょうね。

## 終わりのとき

イエス様の国で生活するときは「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。」とあります。まだ来ていない「終わりのとき」のことですが、それは、いまの世界とつながっているのです<sup>7</sup>。

いまイエス様と喜びをともにしながら生きることが、終わりのときに、イエス様と喜びをともにする<sup>8</sup>こととつながっているよ。と言っているのです。

## イエス様の兄弟って

では、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者」とは誰のことでしょうか<sup>9</sup>。

イエス様と喜びをともにしようとして生きている人すべてです。これは、クリスチャンのことでしょうか。そうかもしれません。しかし、同時に、神の子であるイエス様の兄弟は、神様のこども全員、神様が愛しておられるひとすべてとも言うことができるでしょう<sup>10</sup>。神様をより深く知ることは、神様の子である、イエス様の兄弟の範囲が広がっていくことでもあると思

<sup>7</sup>マタイ 25 章全体

<sup>8</sup>マタイ 25 章 21 節、23 節 主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』

<sup>9</sup>マタイ 12 章 46 節-50 節、だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である。(50 節)

<sup>10</sup>1 テモテ 2 章 4 節 神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。

ます。「この人はいくら何でも神様の子ではないよね」と思うような、最も小さい者も、イエス様の兄弟、神様が愛しておられるこどもだと知ることです<sup>11</sup>。

## イエス様、神様を愛する

そのようなひとたちに、知らず知らずのうちにしている愛の行為は、イエス様にしていることと同じだと言っているのです。では、イエス様の兄弟にすることが、なぜ、イエス様にすることなのでしょうか。それは、おそらく、イエス様をたいせつにすることは、イエス様にとってたいせつなひとをたいせつにすること。イエス様を愛することは、イエス様が愛しておられるひとりひとりを愛することだからでしょう。

この聖書の箇所少し前、マタイによる福音書 22 章 34 節から 40 節では「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」との質問に、イエス様は、第一に「神様を愛すること<sup>12</sup>」と、第二に「自分自身のように、あなたの隣り人を愛すること<sup>13</sup>」だよと答えています。今日の箇所では、この二つのことが実は一つのことだよと言っているのではないかと思います。神様を愛することは、神様が愛しておられる、私たちの隣り人、イエス様の兄弟であるこの最も小さい者を愛すること、そして、イエス様の兄弟であるこの最も小さい者を愛することは、イエス様、神様を愛することです。

みなさんにとって、あなたにとって、イエス様の兄弟であるこの最も小さいものとはだれでしょうか。イエス様を愛する、神様を愛するとはどういうことでしょうか。

## 違った価値観

「今だけ、金だけ、自分だけ」という言葉を聞いたことがありますか。そういう価値観ではいけないよというために、少し極端に言っているのかも知れません。今だけ良ければよい、金だけもうかればよい、自分だけ良ければよい。そうではない価値観に目をむけることが言われているのだと思います。普通、これに対する考え方

<sup>11</sup>マタイによる福音書 5 章 43 節から 48 節

<sup>12</sup>『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 (37 節)

<sup>13</sup>『隣人を自分のように愛しなさい。』 (39 節)

は、少し長い期間で、サステナビリティも考えなければいけないよ、お金だけではなく、芸術や文化、目にみえないものもたいせつにしなければいけないよ、自分だけではなく、ひとの幸せも考えなければいけないよ、ということでしょう。一言で言うところのことは、ヒューマニズムとも言えるかも知れません。

今日の箇所では、イエス様は、今のことが、終わりの時とつながっているよ。人の苦しみに寄り添うこと、兄弟として愛することが、イエス様の願いであるし、神様を愛することともつながっているのだよと言っています。では、イエス様が言っているのはヒューマニズムと同じでしょうか。新たな「問い」が生まれます。

## 世界人権宣言

わたしは、ここ国際基督教大学で教えていますが、この大学では、入学の時に学生宣誓をします。実は、教員も、職員もこの大学に勤め始めるときに、世界人権宣言の原則に立って行動することを誓います。この世界人権宣言は、1948年に国際連合で採択されたものです。その第一条には次のようにあります<sup>14</sup>。

すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳<sup>15</sup>と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。」

最後に同胞の精神とある箇所は英語では、brotherhood となっています。兄弟姉妹としてという意味ですね。谷川俊太郎と言う人の訳では、この箇所は、

わたしたちはみな、生まれながらにして自由です。ひとりひとりがかけがえのない人間であり、その値打ちも同じです。だからたがいによく考え、助け合わねばなりません。(アムネスティ・インターナショナル日本支部／谷川俊太郎)

となっています。

<sup>14</sup>外務省：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/udhr/>  
<sup>15</sup>すべての個人が人間として有する人格を不可侵のものとし、これを相互に尊重する原理

第二次世界大戦のすぐあとに、みんなが平和に暮らすにはどうしたら良いだろうかと考えてまずやったことが、この宣言です。戦争というのは、人の尊厳が甚だしく冒されるものですから、もし、これが守られれば、戦争などというものは、この地上から無くなるでしょう。

これは、ICUの創立にも深く関わった、エレノア・ルーズベルトという女性を中心となって採択にこぎ着けたものですが、このひとも、国連でこのような宣言をまとめ、さまざまな国をまとめて、採択にこぎ着ける努力をするという行為をとおして、イエス様が苦しんでおられるときに、飲みものを差し上げたのではないかと思います。

## おわりに

今日は、イエス様がお生まれになったことをお祝いする日です。

イエス様は「今だけ、金だけ、自分だけ」という価値観から解放して、互いに愛し合う、そのような世界に招いてくださる方です。そのように生きる自由を与えてくださる方です。それがイエス様の言っておられる、救いのひとつの表現だと思えます。

すばらしいかた、すばらしい救い主のお誕生を兄弟姉妹と一緒に、お祝いしましょう。

Voice Memo:

[http://subsite.icu.ac.jp/people/hsuzuki/science/gospel/141221\\_ICUCSHS.MP3](http://subsite.icu.ac.jp/people/hsuzuki/science/gospel/141221_ICUCSHS.MP3)